

社団法人私立大学情報教育協会
第1回 CCC 国際関係学グループ運営委員会議事概要

I. 日 時： 平成 21 年 6 月 22 日(月)午後 2 時～4 時

II. 場 所： 私情協事務局会議室

III. 出席者： 林委員、大崎委員、多賀委員

井端事務局長、森下主幹、山野上

IV. 検討事項：

0. 記録担当者について

本日の記録担当者については、林委員が担当することとなった。

1. 学士力の詳細設計について

(1) 学士課程教育のあり方と最近の関連団体の動向について

① 私情協の今後の進め方について、

事務局より、当協会では、学問分野ごとに、必要に応じてサイバーFD 教員の意見を得ながら学士力について万機公論を尽くすことが重要と考えている旨説明があった。今後は学士課程の詳細やコアカリキュラムのイメージ、評価測定法等について検討を進め、10 月には結論を公表する予定としている。

学士力が目指す方向性について、専門分野と一般教養のどちらを対象とするかということについて、先ず確認を行ったところ、一般的な国際関係学部 of 学生を対象とした学士力を設計することで共通認識を得た。

また、当協会としては、人材育成を行うには、企業の協力が欠かせないと考えていることから、人材育成ニーズマッチングの場をつくり、同時に教員にも社会の現場で学び直しやフィールドワークさせるなど、教員インターンシップの機会を設けることを検討している。その場合、日本青年会議所も連携の対象になるのではという意見が委員からあり、参考とすることとなった。

② その他関連情報

当協会では、新潟大学、加藤かおり准教授より、欧州における大学教員に求められる教育力をイベントにて発表していただいたことがある。社会人学生が多い実情は日本とは違い教育力、到達目標が明確に定められている。日本の大学でも、国際競争力に打ち勝てグローバルにリーダーシップを発揮できる人材育成を行わなくてはならない。

2. 学士力の詳細設計について

他の学問分野委員会ではこれまでに策定した学士力について、それを構成する詳細内容を「因数分解」する作業を行っている。それに倣って国際関係学グループでも同様に、詳細内容について検討を行った。本分野の学士力が、「基本知識」、「スキル」、「態度」で構成されていることから、次のような意見が出された。

- ・ 基本知識として、歴史研究、理論研究、地域研究の三つが含まれる。
- ・ 理論研究のためのツールとしては、‘比較’、‘階層の認識’、‘ネットワーク’などが上げられる。

- ・ 全世界的な問題として、安全保障や難民問題、パンデミックなどが挙げられる。
- ・ スキルとしては、戦略や戦術を作る力、実行力などが求められる。
- ・ 実践力としては、コミュニケーション能力や調査能力、認識を修正していく力などが求められる。

3. 今後のスケジュールについて

次回委員会は7月27日(月)午後1時30分より開始することとなった。引き続き学士力詳細の内容を検討し、コアカリキュラムのイメージや到達度測定方法について今後は検討することとなった。